

3.1.5 動植物の生息又は生育，植生及び生態系の状況

(1) 動物

(7) 調査すべき情報

① 動物相の概況

1) 陸生動物

哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類・昆虫類

2) 水生動物

魚類・底生動物

② 重要な動物種及び注目すべき生息地の分布

(4) 調査地域

対象事業実施区域及びその周辺とした。

(5) 調査方法

既存資料の収集・整理により実施した。動物に係る既存資料の一覧を表 3.1.5-1 に示す。

表 3.1.5-1 動物に係る既存資料一覧

No.	資料名	抽出基準
①	「自然環境保全基礎調査 動植物分布調査(生物多様性調査 種の多様性調査) 第2回～第6回調査(自然環境調査 Web-GIS)」(環境省 HP, 令和4年3月閲覧)	該当2次メッシュ
②	「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物-RED DATA BOOK MIYAGI 2016-」(宮城県, 平成28年)	該当市町村, 地域
③	「宮城県の野生哺乳動物」(宮城野野生動物研究会, 平成8年)	対象事業実施区域の周辺約3km
④	「富谷町誌 新訂」(富谷町, 平成5年)	記載種全て
⑤	「宮城県の鳥類分布」(日本野鳥の会宮城県支部, 平成14年)	該当2次メッシュ
⑥	「ガンカモ類の生息調査(昭和44年度～令和2年度)」(環境省 HP, 令和4年3月閲覧)	該当市町村
⑦	「希少猛禽類調査(イヌワシ・クマタカ)の結果について」(環境省 HP, 平成16年発表)	該当2次メッシュ
⑧	「宮城県猛禽類生息状況調査(環境影響生物基礎調査業務)報告書」(宮城県環境生活部自然保護課, 平成28年)	該当2次メッシュ
⑨	「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」(環境省, 平成23年, 平成27年修正版)	該当2次メッシュ
⑩	「宮城県の両生類・爬虫類」(宮城野野生動物研究会, 平成12年)	該当3次メッシュ
⑪	「宮城県トンボ目録」(柳田則明, 平成29年)	該当市町村
⑫	「宮城県蛾類目録」(宮城昆虫地理研究会, 平成21年)	該当市町村
⑬	「宮城県の甲虫」(渡部徳, 平成元年)	該当市町村
⑭	「宮城県昆虫分布資料1～26」(保谷忠良, 平成元年～平成17年)	対象事業実施区域の周辺約3km
⑮	「(仮称)東成田県自然環境保全地域候補地 学術調査報告書」(宮城県環境生活部自然保護課, 平成9年)	記載種全て
⑯	「環境アセスメントデータベース"EADAS(イーダス)"」(環境省 HP, 令和4年3月閲覧)	該当地域
⑰	「県自然環境保全地域・緑地環境保全地域」(宮城県 HP, 令和4年3月閲覧)	該当地域

(I) 調査結果

① 動物相の概況

1) 陸生動物

調査地域における陸生動物相の概況を表 3.1.5-2 に示す。

対象事業実施区域及びその周辺では、ヒミズ、ノウサギ、キツネ、カモシカ等の哺乳類が 15 種、ヤマドリ、カッコウ、アカゲラ、キビタキ等の鳥類が 124 種、シマヘビ、ヤマカガシ等の爬虫類が 5 種、クロサンショウウオ、トウキョウダルマガエル等の両生類が 10 種、コシアキトンボ、ヒナバタ、ダイミョウセセリ、ゲンゴロウ、ミヤマクワガタ等の昆虫類が 1,611 種確認されている。

表 3.1.5-2 陸生動物相の概況

分類	主な確認種
哺乳類	ヒミズ, アズマモグラ, ニホンザル, ノウサギ, ニホンリス, ハタネズミ, アカネズミ, ツキノワグマ, タヌキ, キツネ, イタチ, ニホンアナグマ, イノシシ, ニホンジカ, カモシカ (15 種)
鳥類	キジ, ヒシクイ, オオハクチョウ, オシドリ, カルガモ, カイツブリ, キジバト, アオサギ, カッコウ, タシギ, トビ, オオタカ, ノスリ, アカゲラ, ハヤブサ, サンコウチョウ, モズ, カケス, ハシブトガラス, シジュウカラ, ツバメ, ヒヨドリ, ウグイス, メジロ, オオヨシキリ, ムクドリ, ツグミ, キビタキ, スズメ, セグロセキレイ, カワラヒワ等 (124 種)
爬虫類	ニホンカナヘビ, シマヘビ, アオダイショウ, ジムグリ, ヤマカガシ (5 種)
両生類	トウホクサンショウウオ, クロサンショウウオ, アズマヒキガエル, ニホンアマガエル, ニホンアカガエル, トウキョウダルマガエル, ウシガエル, シュレーゲルアオガエル等 (10 種)
昆虫類	ホソミオツネントンボ, ニホンカワトンボ, コシアキトンボ, オオカマキリ, キバネハサミムシ, ヒナバタ, ヒグラシ, ツマグロオオヨコバイ, エサキモンキツノカメムシ, シマアメンボ, ヤマトシリアゲ, ダイミョウセセリ, メスグロヒョウモン, スジグロシロチョウ, カノコガ, ミイデラゴミムシ, ゲンゴロウ, ミヤマクワガタ, サビキコリ, ナミテントウ, ヒメツチハンミョウ, シロスジカミキリ, イタドリハムシ, コフキゾウムシ等 (1,611 種)
合計	1,765 種

2) 水生動物

調査地域における水生動物相の概況を表 3.1.5-3 に示す。

対象事業実施区域及びその周辺では、ギンブナ、ウグイ、ヒガシシマドジョウ、アユ、ミナミメダカ等の魚類が 32 種、イシガイ、マシジミ等の底生動物が 3 種確認されている。

表 3.1.5-3 水生動物相の概況

分類	主な確認種
魚類	スナヤツメ類, ギンブナ, ヤリタナゴ, オイカワ, ウグイ, モツゴ, タモロコ, ニゴイ, ヒガシシマドジョウ, ギバチ, アユ, ミナミメダカ, マハゼ, ウキゴリ等 (32 種)
底生動物	イシガイ, マシジミ, スマガイ類 (3 種)
合計	35 種

② 重要な動物種及び注目すべき生息地の分布

1) 重要な動物種

「① 動物相の概況」の結果から、表 3.1.5-4 に示す選定基準に基づき重要な動物種を選定した。選定結果を表 3.1.5-5 に示す。

表 3.1.5-4 重要な動物種の選定基準

No.	選定基準	カテゴリー区分
I	「文化財保護法」(昭和 26 年法律第 214 号), 「宮城県文化財保護条例」(昭和 50 年宮城県条例第 49 号), 「大和町文化財保護条例」(平成 17 年大和町条例第 29 号), 「大郷町文化財保護条例」(平成 6 年大郷町条例第 4 号), 「富谷市文化財保護条例」(平成 11 年富谷市条例第 9 号), 「利府町文化財保護条例」(平成元年利府町条例第 12 号)	特天：特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 県天：県指定天然記念物 和天：大和町指定天然記念物 郷天：大郷町指定天然記念物 富天：富谷市指定天然記念物 利天：利府町指定天然記念物
II	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号)	国内：国内希少野生動植物種
III	「環境省レッドリスト 2020」(環境省 HP, 令和 2 年発表)	EX：絶滅…我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 EW：野生絶滅…飼育・栽培下, あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種 CR+EN：絶滅危惧 I 類…絶滅の危機に瀕している種 CR：絶滅危惧 IA 類…ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの EN：絶滅危惧 IB 類…IA 類ほどではないが, 近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの VU：絶滅危惧 II 類…絶滅の危険が増大している種 NT：準絶滅危惧…現時点での絶滅危険度は小さいが, 生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種 DD：情報不足…評価するだけの情報が不足している種 LP：絶滅のおそれのある地域個体群…地域的に孤立している個体群で, 絶滅のおそれが高いもの
IV	「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物-RED DATA BOOK MIYAGI 2016-」(宮城県, 平成 28 年) 「宮城県の希少な野生動植物-宮城県レッドリスト 2021 年版-」(宮城県 HP, 令和 3 年発表) 「宮城県の希少な野生動植物-宮城県レッドリスト 2022 年版-」(宮城県 HP, 令和 4 年発表)	EX：絶滅…国(県内)ではすでに絶滅したと考えられる種 EW：野生絶滅…飼育・栽培下, あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種 CR+EN：絶滅危惧 I 類…絶滅の危機に瀕している種 CR：絶滅危惧 IA 類…ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの EN：絶滅危惧 IB 類…IA 類ほどではないが, 近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの VU：絶滅危惧 II 類…絶滅の危険が増大している種 NT：準絶滅危惧…現時点での絶滅危険度は小さいが, 生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種 DD：情報不足…評価するだけの情報が不足している種 LP：絶滅のおそれのある地域個体群…地域的に孤立している個体群(繁殖個体群を含む)で, 絶滅のおそれが高いもの 要：要注目種…県内では現時点で絶滅の可能性が低いものの, その生息・生育状況に注目すべき種

表 3.1.5-5(1) 既存資料による重要な動物種

分類	No.	目名	科名	種名	選定基準 ^{*1}			
					I	II	III	IV
哺乳類	1	ウシ目	ウシ科	カモシカ	特天			要
鳥類	2	カモ目	カモ科	ヒシクイ	国天		VU	
	3			マガン	国天		NT	
	4			オシドリ			DD	
	5			トモエガモ			VU	
	6			ペリカン目	サギ科	コサギ		
	7	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ			NT	VU
	8	チドリ目	シギ科	オオジシギ			NT	VU
	9	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ			NT	
	10		タカ科	ハチクマ			NT	VU
	11			チュウヒ		国内	EN	NT
	12			ツミ				DD
	13			ハイタカ			NT	NT
	14			オオタカ			NT	NT
	15			サシバ			VU	VU
	16			ブッポウソウ目	カワセミ科	ヤマセミ		
	17	ハヤブサ目	ハヤブサ科	ハヤブサ		国内	VU	NT
	18	スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ			VU	NT
	19		ホオジロ科	ノジコ			NT	NT
	両生類	20	有尾目	サンショウウオ科	トウホクサンショウウオ			NT
21		クロサンショウウオ					NT	LP
22		無尾目	アカガエル科	ヤマアカガエル				NT
23				トウキョウダルマガエル			NT	NT
昆虫類	24	トンボ目 (蜻蛉目)	イトトンボ科	ルリイトトンボ				CR+EN
	25		モノサシトンボ科	グンバイトンボ				CR+EN
	26		ヤンマ科	カトリヤンマ				CR+EN
	27		エゾトンボ科	エゾトンボ				VU
	28		トンボ科	ヒメアカネ				CR+EN
	29	カメムシ目 (半翅目)	コオイムシ科	タガメ		国内	VU	CR+EN
	30	チョウ目 (鱗翅目)	タテハチョウ科	ウラギンスジヒョウモン			VU	
	31			オオムラサキ			NT	
	32		アゲハチョウ科	ヒメギフチョウ本州亜種				NT
	33	コウチュウ目 (鞘翅目)	オサムシ科	マークオサムシ				CR+EN
	34		オサムシ科	セアカオサムシ				NT
	35			オオハンミョウモドキ				NT
	36			シラハタキバナガゴミムシ				DD
	37			ハンミョウ科	ナミハンミョウ			
	38		ゲンゴロウ科	メススジゲンゴロウ				NT
	39			ゲンゴロウ			VU	NT
	40			エゾゲンゴロウモドキ				VU
	41			ルイスツブゲンゴロウ				NT
	42			コガネムシ科	クチキマグソコガネ			
	43		ダエンマルトゲムシ科	シラホシダエンマルトゲムシ				DD
	44		ヒメドロムシ科	ケスジドロムシ				DD
	45		ホタル科	スジグロボタル				NT
	46		ナガシクイムシ科	アミメナガシクイ				DD
	47		ナガクチキムシ科	ヒメカツオガタナガクチキ				DD
	48			ルリナガクチキ				NT
	49			ムネアカナガクチキ				NT
	50	ミスジナガクチキ					NT	

表 3.1.5-5(2) 既存資料による重要な動物種

分類	No.	目名	科名	種名	選定基準 ^{*1}			
					I	II	III	IV
昆虫類	51	コチユウ目 (輪翅目)	ツチハンミョウ科	ミヤマツチハンミョウ				DD
	52			ムラサキオオツチハンミョウ				NT
	53		キノコムシダマシ科	チシマコナガクチキ				DD
	54		カミキリムシ科	ヒゲブトハナカミキリ				DD
	55			ヨツボシカミキリ				CR+EN
	56			トラフホソバネカミキリ				NT
	57		ハムシ科	キンイロネクイハムシ				NT
	58		ヒゲナガゾウムシ科	オオメナガヒゲナガゾウムシ				DD
	59	ハチ目 (膜翅目)	スズメバチ科	クチビロハムシドロバチ				DD
	60		ギングチバチ科	クロケラトリバチ				DD
	61			ニトベギングチ				VU
	62		ドロバチモドキ科	ニッポンハナダカバチ				CR+EN
	63		アリマキバチ科	ミヤギノヨコバイバチ				VU
	64			キアシマエダテバチ				DD
	65		ヒメハナバチ科	エチゼンヒメハナバチ				NT
	66		コハナバチ科	アオスジハナバチ				CR+EN
	67		ハキリバチ科	マイマイツツハナバチ				VU
魚類	68	ヤツメウナギ目	ヤツメウナギ科	スナヤツメ類			VU	
	69	コイ目	コイ科	キンブナ			VU	VU
	70			ヤリタナゴ			NT	DD
	71			タナゴ			EN	CR+EN
	72			シナイモツゴ			CR	CR+EN
	73		ドジョウ科	ドジョウ			NT	
	74		フクドジョウ科	ホトケドジョウ			EN	NT
	75	ナマズ目	ギギ科	ギバチ			VU	NT
	76	サケ目	サケ科	サクラマス			NT	NT
	77	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ			VU	NT
	78	スズキ目	ハゼ科	ジュズカケハゼ			NT	NT
底生動物	79	イシガイ目	シジミ科	マシジミ			VU	DD
合計		24 目	52 科	79 種	3 種	3 種	34 種	70 種

*1 選定基準は「表 3.1.5-4」に対応する。

2) 注目すべき生息地の分布

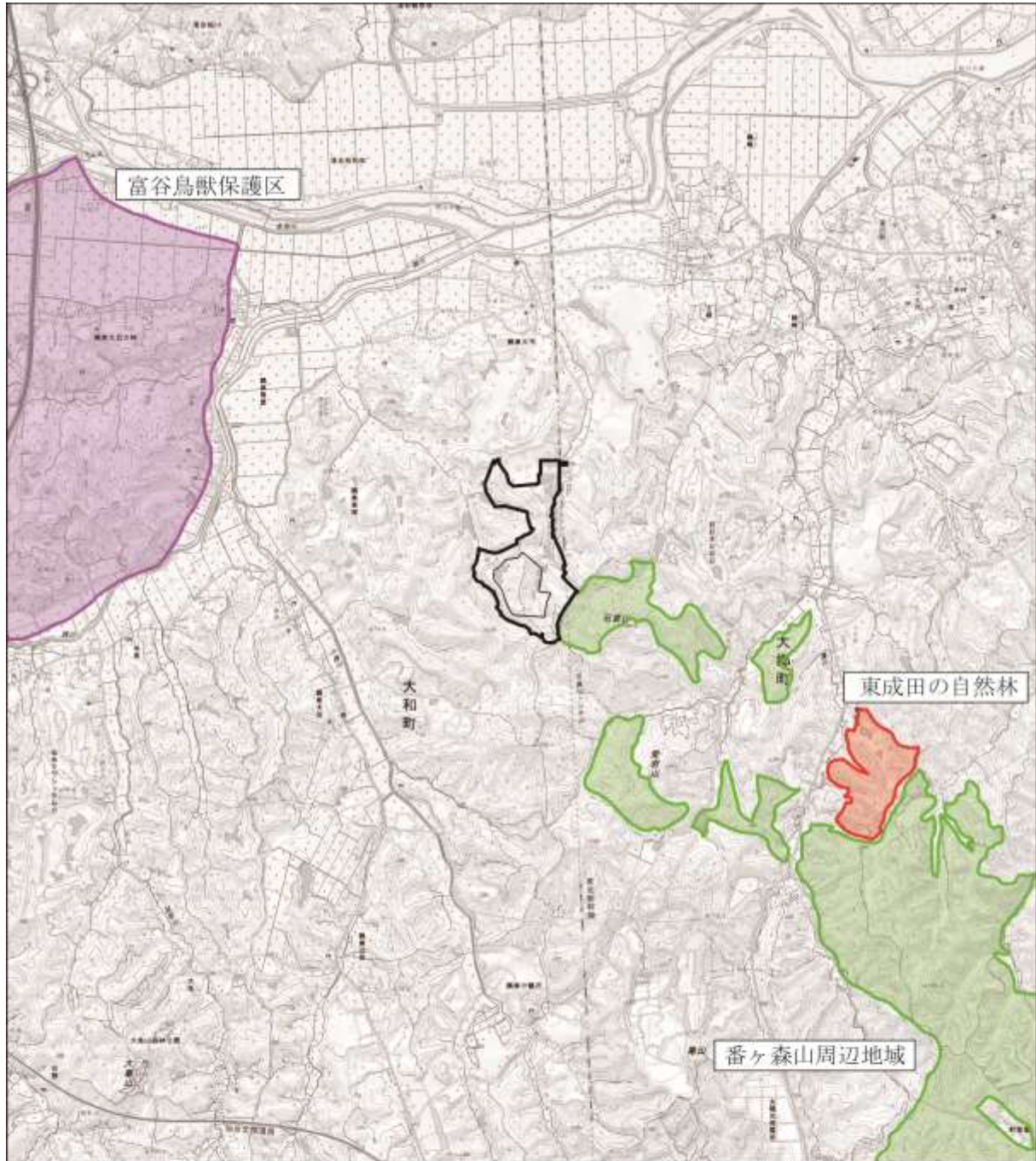
表3.1.5-6に示す選定基準に基づき、注目すべき生息地を選定した。注目すべき生息地の選定結果を表3.1.5-7に、分布状況を図3.1.5-1に示す。

表 3.1.5-6 注目すべき生息地の選定基準


選定基準	カテゴリー区分
「文化財保護法」(昭和26年法律第214号)、「宮城県文化財保護条例」(昭和50年宮城県条例第49号)、「大和町文化財保護条例」(平成17年大和町条例第29号)、「大郷町文化財保護条例」(平成6年大郷町条例第4号)、「富谷市文化財保護条例」(平成11年富谷市条例第9号)、「利府町文化財保護条例」(平成元年利府町条例第12号)	特別天然記念物、国指定天然記念物、県指定天然記念物、大和町指定天然記念物、大郷町指定天然記念物、富谷市指定天然記念物、利府町指定天然記念物
「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律第75号)	生息地等保護区
「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」(平成14年法律第88号)	鳥獣保護区、鳥獣保護区特別保護地区、国立・国定公園特別保護地区
「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約(ラムサール条約)」(昭和55年条約第28号)	条約湿地
「宮城県自然環境保全条例」(昭和47年宮城県条例第25号)	県自然環境保全地域、緑地環境保全地域
「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」(環境省HP,令和4年3月閲覧)	重要湿地
「重要野鳥生息地(IBA)」(日本野鳥の会HP,令和4年3月閲覧)	重要野鳥生息地(IBA)
「Key Biodiversity Area(KBA)」(コンサベーション・インターナショナル・ジャパンHP,令和4年3月閲覧)	Key Biodiversity Area(KBA)

表 3.1.5-7 既存資料による注目すべき生息地

選定基準	名称	概要
「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」(平成14年法律第88号)	富谷鳥獣保護区	野生鳥獣の保護のため、狩猟を禁止している区域
「宮城県自然環境保全条例」(昭和47年宮城県条例第25号)	東成田の自然林 県自然環境保全地域	大郷町に位置する標高28m～104mの丘陵地。この地域の核となる特別地区には、県内丘陵地の極相林ともいえる樹齢100年を超えるモミ・イヌブナ林があり、それに囲まれるように早春植物群落及び北側に隣接してクリ・コナラ林がある。また、地域の北側には、ため池を中心にヨシ・マコモ群落が発達し、豊富な動植物の生息地として貴重な地域となっている。周辺地域が人間の生活圏内に組み入れられて改変が進むなかで、貴重な自然林がまとも保存された、良好な自然環境を有する学術的にもきわめて重要な地域となっている。
	番ヶ森山周辺地域 緑地環境保全地域	利府町に位置する標高211mの番ヶ森山とその周辺地域。この一帯は50m～200mの定高性の丘陵地帯で、区域周辺には住宅地や水田、採石場が点在している。この地域ではスギ・ヒノキ植林が広い範囲を占め、ニホンカモシカの他、夏鳥としてサシバ・サンショウクイ・ヨタカ、留鳥としてハイタカ・オオタカ等が生息している他、昆虫類ではニッポンハナダカバチ・マイマイツツハナバチをはじめ豊富な動植物の存在が確認されている。また、本地域の内外には大小の河川・溜池があることから、魚類と底生生物にとっても良好な生息環境となっている。



凡例

-  対象事業実施区域
-  埋立地
-  鳥獣保護区
-  自然環境保全地域
-  緑地環境保全地域



0 1km 2km

1 : 50,000

「令和3年度宮城県鳥獣保護区等位置図」（令和3年）及び「自然公園・自然環境保全地域等索引図」（宮城県HP, 令和4年3月閲覧）を元に作成。

図 3.1.5-1 注目すべき生息地の分布状況

(2) 植物

(ア) 調査すべき情報

- ① 植物相及び植生の概況
- ② 重要な植物種及び植物群落の分布

(イ) 調査地域

対象事業実施区域及びその周辺とした。

(ウ) 調査方法

既存資料の収集・整理により実施した。植物に係る既存資料の一覧を表 3.1.5-8 に示す。

表 3.1.5-8 植物に係る既存資料一覧

No.	資料名	抽出基準
①	「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物-RED DATA BOOK MIYAGI 2016-」(宮城県, 平成 28 年)	該各市町村
②	「富谷町誌 新訂」(富谷町, 平成 5 年)	記載種全て
③	「宮城県植物誌 2017」(宮城植物の会, 平成 29 年)	該各市町村
④	「(仮称) 東成田県自然環境保全地域候補地 学術調査報告書」(宮城県環境生活部自然保護課, 平成 9 年)	記載種全て
⑤	「県自然環境保全地域・緑地環境保全地域」(宮城県 HP, 令和 4 年 3 月閲覧)	該当地域

(I) 調査結果

① 植物相及び植生の概況

1) 植物相の概況

調査地域における植物相の概況を表3.1.5-9に示す。

対象事業実施区域及びその周辺では、ホソバナライシダ、クマワラビ、ゴヨウマツ、ヒトリシズカ、ウスバサイシン、シロダモ、ウラシマソウ、カタクリ、ムラサキケマン、イヌブナ等の植物が1,314種確認されている。

表 3.1.5-9 植物相の概況

分類		主な確認種
シダ植物		スギナ、ゼンマイ、オウレンシダ、イワガネゼンマイ、トラノオシダ、ハリガネワラビ、ミゾシダ、コガネシダ、ヌリワラビ、イヌガンソク、コウヤワラビ、シシガシラ、イヌワラビ、オオヒメワラビ、ホソバナライシダ、リョウメンシダ、ヤマヤブソテツ、ミサキカグマ、オシダ、クマワラビ、タニヘゴ、サカゲイノデ、ノキシノブ等 (114種)
裸子植物		モミ、アカマツ、ゴヨウマツ、ヒノキ、スギ、クロベ、イヌガヤ、カヤ (8種)
被子植物	—	ジュンサイ、フサジュンサイ、コウホネ、ヒツジグサ、マツブサ、ヒトリシズカ、フタリシズカ、ドクダミ (8種)
	モクレン類	ミチノクサイシン、ウスバサイシン、トウゴクサイシン、コブシ、ホオノキ、タムシバ、オオバクロモジ、シロダモ (8種)
	単子葉植物	ショウブ、ウラシマソウ、カラスビシャク、ヘラオモダカ、オモダカ、クロモ、ヒルムシロ、オニドコロ、エンレイソウ、ホウチャクソウ、サルトリイバラ、ヤマカシュウ、オオウバユリ、カタクリ、ヤマジノホトトギス、シュンラン、シャガ、ヤブカンゾウ、イグサ、シロイトスゲ、カンガレイ、アブラガヤ、トダシバ、ネズミムギ、マコモ等 (368種)
	真正双子葉植物	ムラサキケマン、ミツバアケビ、アオツツラフジ、メギ、ニリンソウ、アキカラマツ、アワブキ、マンサク、トリアシショウマ、ノブドウ、エビヅル、ヤブマメ、サイカチ、ツクシハギ、ナツグミ、クマヤナギ、カナムグラ、クワクサ、ムカゴイラクサ、ヤマザクラ、ミツバツチグリ、イヌブナ、ハシバミ、アマチャヅル、コクサギ、ハナタデ等 (808種)
合計		1,314種

2) 植生の概況

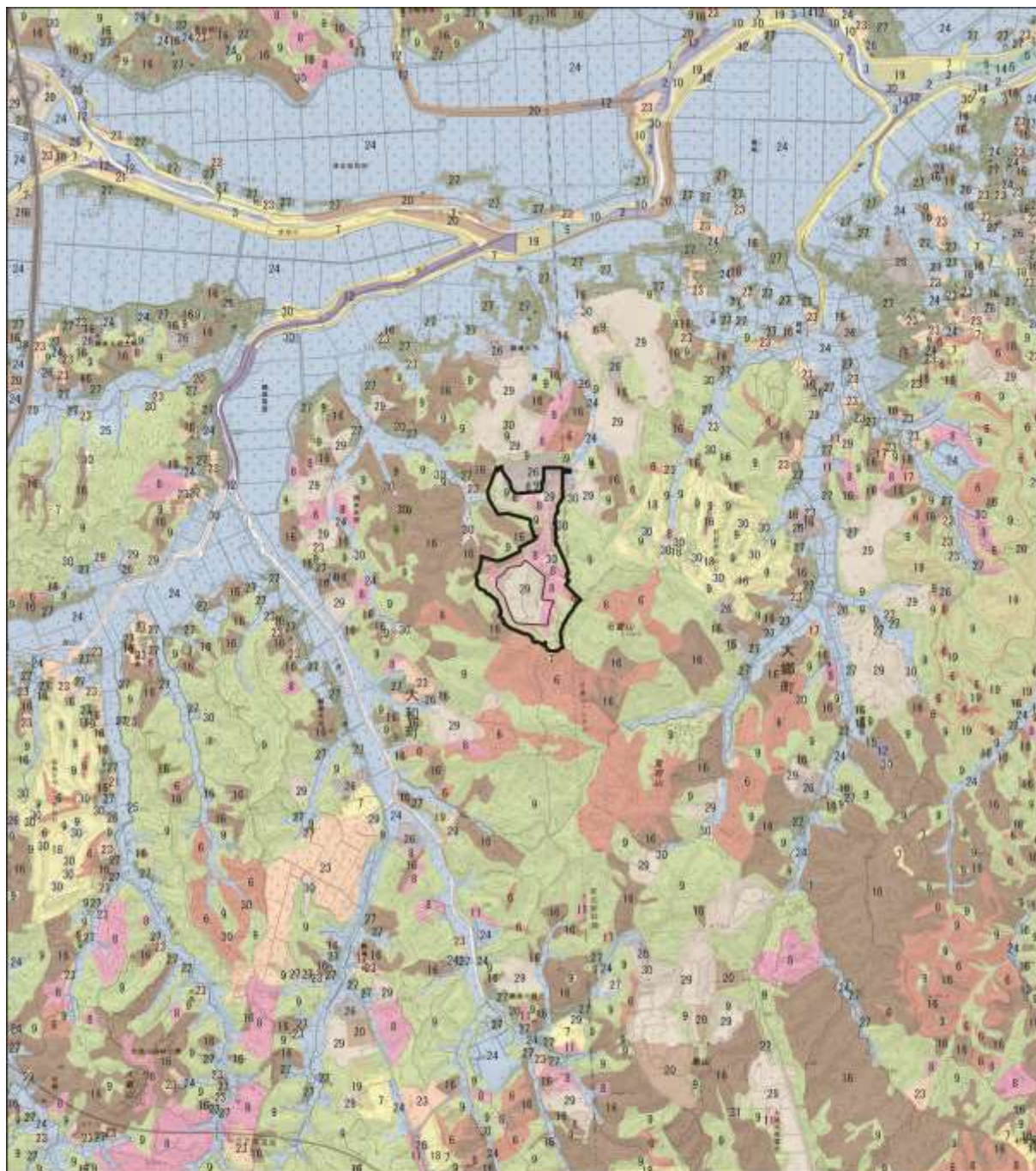
ア) 現存植生図

「自然環境保全基礎調査 植生調査 第6回, 第7回調査(自然環境調査 Web-GIS)」(環境省 HP, 令和4年3月閲覧)による現存植生図を図3.1.5-2に, 現存植生図の凡例を表3.1.5-10に示す。



対象事業実施区域周辺には主にアカマツ群落(V), クリーコナラ群集, スギ・ヒノキ・サワラ植林, ゴルフ場・芝地, 水田雑草群落が分布し, 対象事業実施区域内には主に伐採跡地群落, クリーコナラ群集が分布するほか, 造成地等の土地利用で占められている。

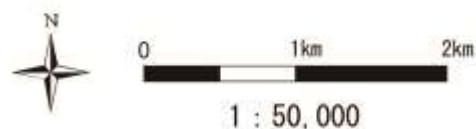
表 3.1.5-10 植生の凡例

植生区分	図中色	群落名	統一凡例No.
ブナクラス域自然植生	1	アオハダーモミ群集	141101
	2	ヤナギ高木群落(IV)	180100
	3	ヤナギ低木群落(IV)	180200
ブナクラス域代償植生	4	クリーミズナラ群集	220102
	5	オニグルミ群落(V)	221200
	6	アカマツ群落(V)	230100
	7	ススキ群団(V)	250200
	8	伐採跡地群落(V)	260000
ヤブツバキクラス域代償植生	9	クリーコナラ群集	410101
	10	アズマネザサ群落	430400
	11	クズ群落	440200
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等	12	ヨシクラス	470400
	13	ミゾソバヨシ群落	470401
	14	オギ群集	470502
	15	ヒルムシロクラス	470600
植林地、耕作地植生	16	スギ・ヒノキ・サワラ植林	540100
	17	竹林	550000
	18	ゴルフ場・芝地	560100
	19	牧草地	560200
	20	路傍・空地雑草群落	570100
	21	放棄畑雑草群落	570101
	22	果樹園	570200
	23	畑雑草群落	570300
	24	水田雑草群落	570400
	25	放棄水田雑草群落	570500
その他	26	市街地	580100
	27	緑の多い住宅地	580101
	28	工場地帯	580300
	29	造成地	580400
	30	解放水域	580600
	31	自然裸地	580700



凡例

-  対象事業実施区域
-  埋立地



「自然環境保全基礎調査 植生調査 第6回，第7回調査（自然環境調査Web-GIS）」（環境省HP，令和4年3月閲覧）を元に作成。
 ただし，対象事業実施区域内の植生は大きく変化していたことから，現地踏査結果等を元に修正。

図 3.1.5-2 現存植生図

イ) 植生自然度

「1/2.5万植生図の新たな植生自然度について」(環境省自然環境局生物多様性センター,平成28年)に準じた区分の植生自然度を図3.1.5-3に、植生自然度の凡例を表3.1.5-11に示す。

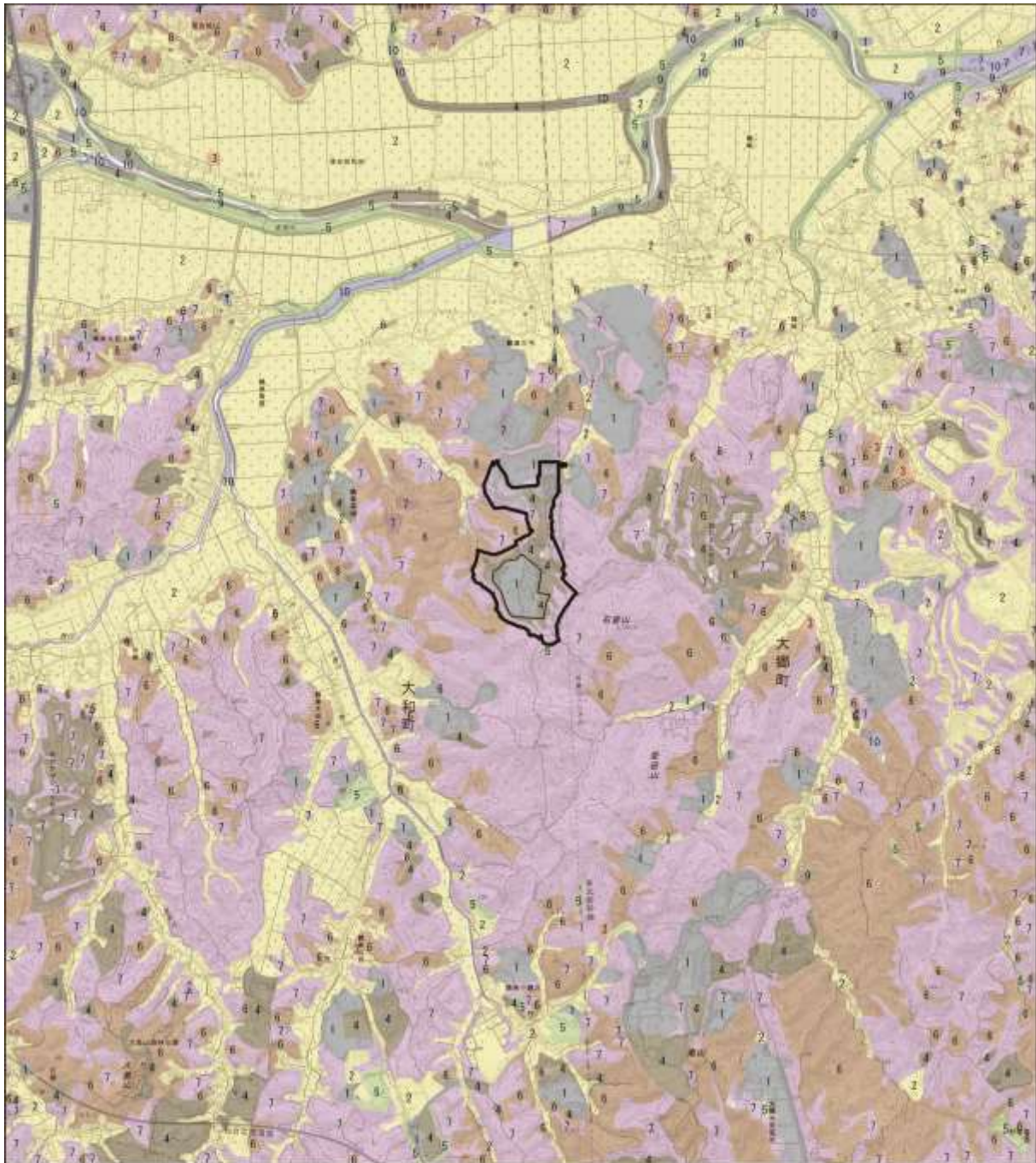
対象事業実施区域周辺には主に植生自然度6,7及び2が分布し、対象事業実施区域内には主に植生自然度7,4及び1が分布している。

表 3.1.5-11 植生自然度の凡例



植生自然度	図中色	区分内容	植生区分 ^{*1}
10	10	自然草原	ヨシクラス、オギ群集、ヒルムシロクラス
9	9	自然林	アオハダーモミ群集、ヤナギ高木群落(IV)、ヤナギ低木群落(IV)
8		二次林(自然林に近いもの)	なし
7	7	二次林	クリーミズナラ群集、オニグルミ群落(V)、アカマツ群落(V)、クリーコナラ群集
6	6	植林地	スギ・ヒノキ・サワラ植林
5	5	二次草原(背の高い草原)	ススキ群団(V)、アズマネザサ群落、クズ群落、ミゾソバヨシ群落
4	4	二次草原(背の低い草原)	伐採跡地群落(V)、ゴルフ場・芝地、路傍・空地雑草群落、放棄畑雑草群落、放棄水田雑草群落
3	3	外来種植林 農耕地(樹園地)	竹林、果樹園
2	2	外来種草原 農耕地(水田・畑)	牧草地、畑雑草群落、水田雑草群落、緑の多い住宅地
1	1	市街地等	市街地、工場地帯、造成地

*1 植生区分は「図3.1.5-2 現存植生図」による。

注1) 開放水域及び自然裸地に植生自然度は設定されていない。



凡例

-  対象事業実施区域
-  埋立地



0 1km 2km

1 : 50,000

「図 3.1.5-2 現存植生図」及び「1/2.5 万植生図の新たな植生自然度について」（環境省自然環境局生物多様性センター, 平成 28 年）を元に作成。

図 3.1.5-3 植生自然度

② 重要な植物種及び植物群落の分布

1) 重要な植物種

「① 植物相及び植生の概況」の結果から、表 3.1.5-12 に示す選定基準に基づき重要な植物種を選定した。選定結果を表 3.1.5-13 に示す。

表 3.1.5-12 重要な植物種の選定基準

No.	選定基準	カテゴリー区分
I	「文化財保護法」(昭和 26 年法律第 214 号), 「宮城県文化財保護条例」(昭和 50 年宮城県条例第 49 号), 「大和町文化財保護条例」(平成 17 年大和町条例第 29 号), 「大郷町文化財保護条例」(平成 6 年大郷町条例第 4 号), 「富谷市文化財保護条例」(平成 11 年富谷市条例第 9 号), 「利府町文化財保護条例」(平成元年利府町条例第 12 号)	特天: 特別天然記念物 国天: 国指定天然記念物 県天: 県指定天然記念物 和天: 大和町指定天然記念物 郷天: 大郷町指定天然記念物 富天: 富谷市指定天然記念物 利天: 利府町指定天然記念物
II	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号)	国内: 国内希少野生動植物種
III	「環境省レッドリスト 2020」(環境省 HP, 令和 2 年発表)	EX: 絶滅…我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 EW: 野生絶滅…飼育・栽培下, あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種 CR+EN: 絶滅危惧 I 類…絶滅の危機に瀕している種 CR: 絶滅危惧 IA 類…ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの EN: 絶滅危惧 IB 類…IA 類ほどではないが, 近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの VU: 絶滅危惧 II 類…絶滅の危険が増大している種 NT: 準絶滅危惧…現時点での絶滅危険度は小さいが, 生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種 DD: 情報不足…評価するだけの情報が不足している種 LP: 絶滅のおそれのある地域個体群…地域的に孤立している個体群で, 絶滅のおそれが高いもの
IV	「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物-RED DATA BOOK MIYAGI 2016-」(宮城県, 平成 28 年) 「宮城県の希少な野生動植物-宮城県レッドリスト 2021 年版-」(宮城県 HP, 令和 3 年発表) 「宮城県の希少な野生動植物-宮城県レッドリスト 2022 年版-」(宮城県 HP, 令和 4 年発表)	EX: 絶滅…国(県内)ではすでに絶滅したと考えられる種 EW: 野生絶滅…飼育・栽培下, あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種 CR+EN: 絶滅危惧 I 類…絶滅の危機に瀕している種 CR: 絶滅危惧 IA 類…ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの EN: 絶滅危惧 IB 類…IA 類ほどではないが, 近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの VU: 絶滅危惧 II 類…絶滅の危険が増大している種 NT: 準絶滅危惧…現時点での絶滅危険度は小さいが, 生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種 DD: 情報不足…評価するだけの情報が不足している種 LP: 絶滅のおそれのある地域個体群…地域的に孤立している個体群(繁殖個体群を含む)で, 絶滅のおそれが高いもの 要: 要注目種…県内では現時点で絶滅の可能性が低いものの, その生息・生育状況に注目すべき種

表 3.1.5-13(1) 既存資料による重要な植物種

No.	科名	種名	選定基準			
			I	II	III	IV
1	ミズニラ科	ミズニラ			NT	NT
2	サンショウモ科	サンショウモ			VU	NT
3	イノモトソウ科	オオバノハチジョウシダ				CR+EN
4	メシダ科	ハコネシケチシダ				VU
5	オンダ科	オオイタチシダ				NT
6		キヨスミヒメワラビ				VU
7		イノデモドキ				VU
8	ウマノスズクサ科	ミチノクサイシン			VU	NT
9	オモダカ科	アギナシ			NT	VU
10	トチカガミ科	トチカガミ			NT	VU
11		イトトリゲモ			NT	NT
12		ミズオオバコ			VU	VU
13		コウガイモ				VU
14		ヒルムシロ科	ホソバミズヒキモ			
15	ツツイトモ				VU	CR+EN
16	ユリ科	ミヤマスカシユリ			EN	VU
17	ラン科	エビネ			NT	VU
18		ユウシュンラン			VU	NT
19		キンラン			VU	VU
20		クマガイソウ			VU	CR+EN
21		アオスズラン				VU
22		オオミズトンボ			EN	CR+EN
23		ジガバチソウ				NT
24		ノビネチドリ				VU
25		ヒメフタバラン				要
26		サギソウ			NT	CR+EN
27		ツレサギソウ				VU
28		マイサギソウ				CR+EN
29		ヤマトキソウ				CR+EN
30	アヤメ科	カキツバタ			NT	VU
31		アヤメ				NT
32	クサスギカズラ科	ナルコユリ				DD
33	ガマ科	ヤマトミクリ			NT	CR+EN
34		タマミクリ			NT	CR+EN
35		ナガエミクリ			NT	NT
36		ヒメミクリ			VU	VU
37	カヤツリグサ科	ヤマクボスゲ			NT	VU
38		ノゲヌカスゲ				要
39		ニイガタガヤツリ			CR	NT
40		コツブヌマハリイ			VU	VU
41	イネ科	ヒメコヌカグサ			NT	NT
42		カリヤス				要
43		タチドジョウツナギ				要
44		イヌアワ				VU
45		ハイドジョウツナギ				VU
46	ケシ科	ナガミノツルケマン			NT	NT
47		ヤマブキソウ				NT
48	キンポウゲ科	センウズモドキ			VU	NT
49		ウゼントリカブト			VU	
50		フクジュソウ				VU
51		レンゲショウマ				NT

表 3.1.5-13(2) 既存資料による重要な植物種

No.	科名	種名	選定基準			
			I	II	III	IV
52	キンボウゲ科	カザグルマ			NT	VU
53		シロバナカザグルマ			NT	
54		トウゴクサバノオ				NT
55		シラネアオイ				NT
56		スハマソウ			NT	NT
57		オキナグサ			VU	CR+EN
58	ボタン科	ヤマジャクヤク			NT	VU
59	タコノアシ科	タコノアシ			NT	NT
60	マメ科	マキエハギ				NT
61	イラクサ科	コケミズ				NT
62	トウダイグサ科	ノウルシ			NT	NT
63	スマレ科	エゾノタチツボスマレ				NT
64		ヒゴスマレ				CR+EN
65	ジンチョウゲ科	ナニワズ				CR+EN
66	アブラナ科	ミズタガラシ				VU
67	タデ科	ヤナギヌカボ			VU	NT
68		サデクサ				NT
69		ヌカボタデ			VU	NT
70		ホソバイヌタデ			NT	NT
71		ノダイオウ			VU	NT
72	ヒユ科	マツナ				NT
73		ハママツナ				NT
74	サクラソウ科	サクラソウ			NT	CR+EN
75	リンドウ科	コケリンドウ				VU
76	キョウチクトウ科	フナバラソウ			VU	VU
77		コカモメヅル				VU
78		スズサイコ			NT	VU
79	ヒルガオ科	マメダオシ			CR	EX
80	ムラサキ科	ムラサキ			EN	CR+EN
81		ツルカメバソウ			EN	CR+EN
82	オオバコ科	マルバノサワトウガラシ			VU	VU
83	シソ科	アキノタムラソウ				NT
84		ナミキソウ				NT
85	ハマウツボ科	キヨスミウツボ				VU
86	タヌキモ科	イヌタヌキモ			NT	NT
87		ミミカキグサ				CR+EN
88		ホザキノミミカキグサ				CR+EN
89		ムラサキミミカキグサ			NT	NT
90		シロバナミミカキグサ			NT	
91	キキョウ科	キキョウ			VU	NT
92	ミツガシワ科	ガガブタ			NT	CR+EN
93	キク科	キタノコギリソウ			VU	
94		アワコガネギク			NT	NT
95		ノニガナ				NT
96		コオニタビラコ				VU
97		オオニガナ				NT
98		アキノハハコグサ			EN	CR+EN
99		ミヤコアザミ				CR+EN
100		セリ科	ハナビゼリ			
101	ヌマゼリ				VU	VU
102	ガマズミ科	レンブクソウ				NT
合計	43 科	102 種	0 種	0 種	54 種	98 種

2) 重要な植物群落の分布

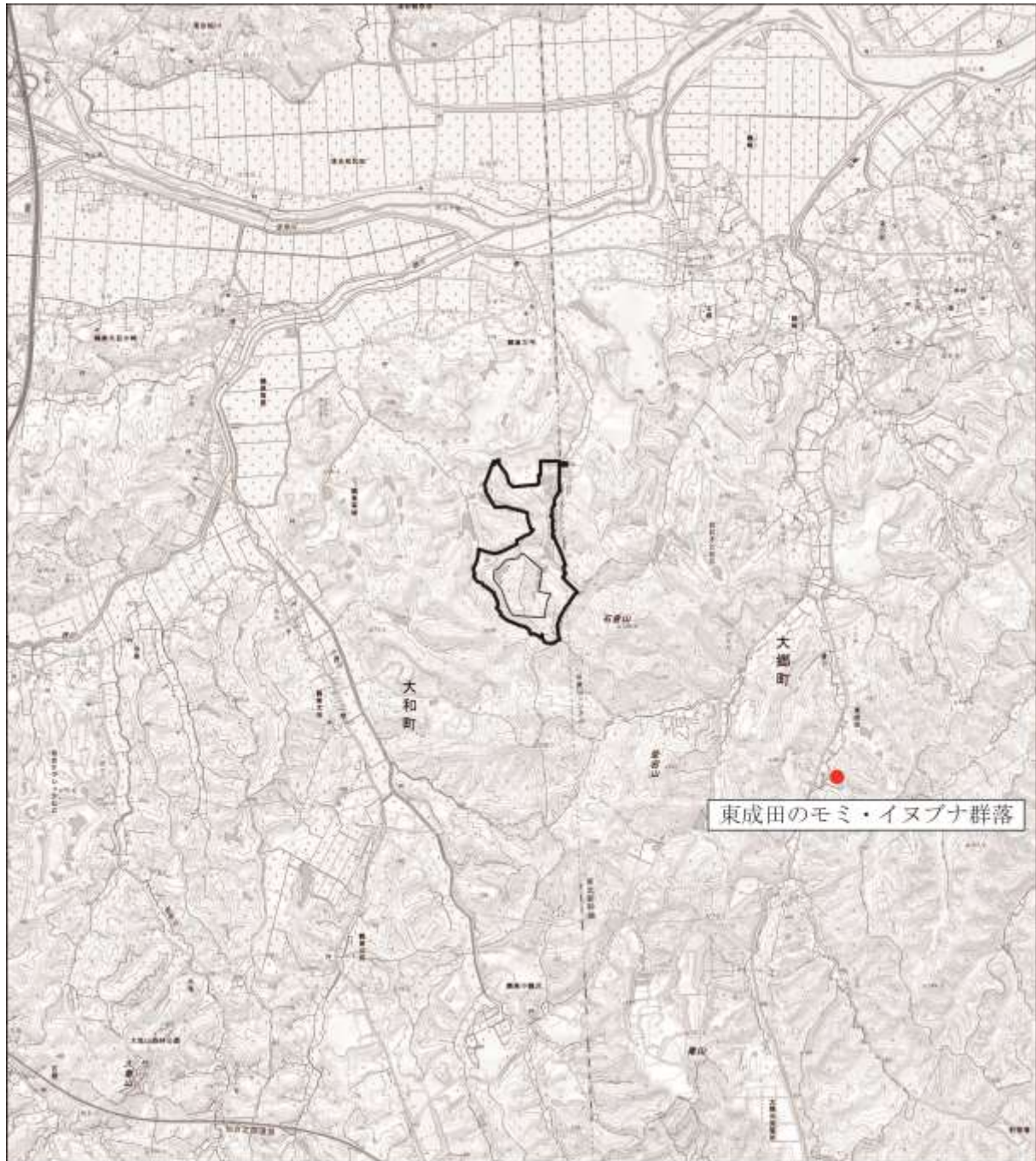
表 3.1.5-14 に示す選定基準に基づき、重要な植物群落を選定した。重要な植物群落の選定結果は表 3.1.5-15 に、分布状況は図 3.1.5-4 に示すとおりである。

表 3.1.5-14 重要な植物群落の選定基準




選定基準	カテゴリー区分
「自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査 第2回, 第3回, 第5回調査 (自然環境調査 Web-GIS)」(環境省 HP, 令和4年3月閲覧)	A: 原生林もしくはそれに近い自然林 B: 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群 C: 比較的普通に見られるものであっても、南限, 北限, 隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群 D: 砂丘, 断崖地, 塩沼地, 湖沼, 河川, 湿地, 高山, 石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの E: 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの F: 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの G: 乱獲その他の人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群 H: その他, 学術上重要な植物群落または個体群
「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物-RED DATA BOOK MIYAGI 2016-」(宮城県, 平成28年) 「宮城県の希少な野生動植物-宮城県レッドリスト 2021年版-」(宮城県 HP, 令和3年発表)	D: 壊滅…群落は壊滅した 4: 壊滅状態…群落は全体的に壊滅状態にあり、緊急に対策を講じなければ壊滅する 3: 壊滅危惧…対策を講じなければ、群落は徐々に悪化して壊滅する 2: 破壊危惧…群落は当面保護されているが、将来破壊されるおそれがある 1: 要注意…現在, 保護・管理状態がよく、当面破壊されるおそれが少ない。しかし, 監視は必要である
「植物群落レッドデータ・ブック」(NACS-J・WWF Japan, 平成8年)	ランク4: 緊急に対策必要 ランク3: 対策必要 ランク2: 破壊の危惧 ランク1: 要注意

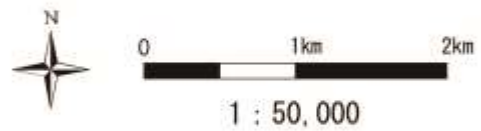
表 3.1.5-15 既存資料による重要な植物群落

選定基準	名称	カテゴリー区分	概要
「宮城県の希少な野生動植物-宮城県レッドリスト 2021年版-」(宮城県 HP, 令和3年発表)	東成田のモミ・イヌブナ群落	ランク3	胸高直径が70~100cmほどの大木が林立するモミとイヌブナが優占する林で、谷部にはニリンソウやカテンソウなどの早春に開花する植物が密生してみられる。県中央部の丘陵地において、自然林がまとまって保存されており、学術的にもきわめて重要な群落である。



凡例

-  対象事業実施区域
-  埋立地
-  重要な植物群落



「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物-RED DATA BOOK MIYAGI 2016-」（宮城県，平成 28 年）を元に作成。

図 3.1.5-4 重要な植物群落の分布状況

3) 巨樹・巨木林, 天然記念物

「自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査 第4回, 第6回調査(自然環境調査 Web-GIS)」(環境省 HP, 令和4年5月閲覧)によると, 表 3.1.5-16 に示す4件の巨樹・巨木林が存在する。また, 県指定の天然記念物として, 表 3.1.5-17 に示す1件の天然記念物が存在する。分布状況は図 3.1.5-5 に示すとおりである。

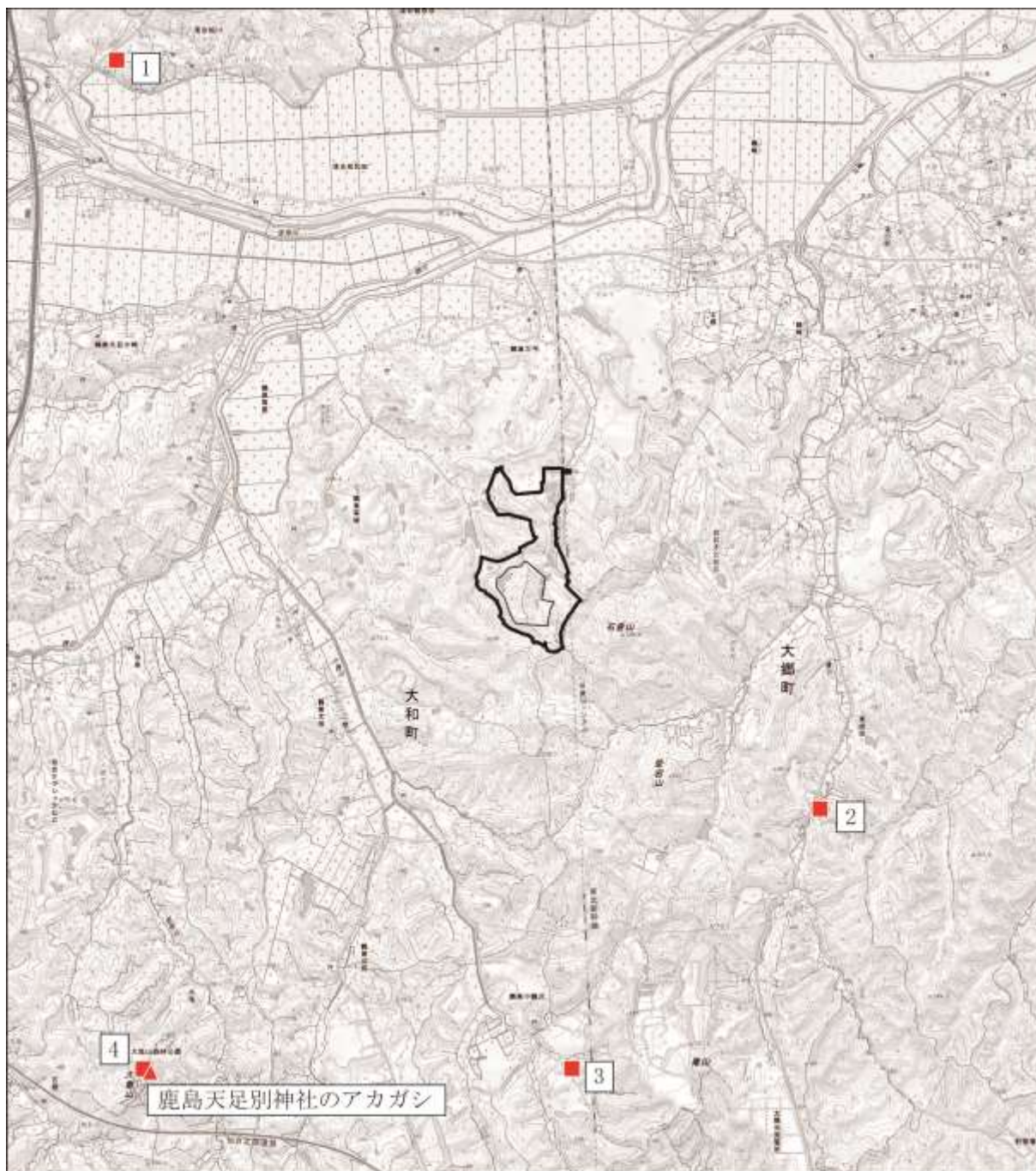
表 3.1.5-16 対象事業実施区域及びその周辺の巨樹・巨木林

No.	樹種	幹周 (cm)	樹高 (m)
1	スギ	300	18
2	ヒバ	280	26
3	ヒノキ	490	17
4	アカガシ	572	16

表 3.1.5-17 対象事業実施区域及びその周辺の天然記念物

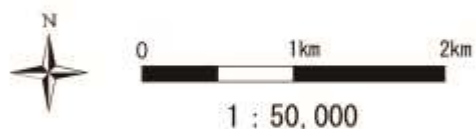
指定	名称	所在地
県	鹿島天足別神社のアカガシ	富谷市大亀和合田二番 鹿嶋天足別神社

出典:「指定文化財・登録有形文化財一覧について」(富谷市 HP, 令和4年3月閲覧)



凡例

- 対象事業実施区域
- 埋立地
- 巨樹・巨木林
- ▲ 天然記念物



「自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査 第4回, 第6回調査 (自然環境調査 Web-GIS)」 (環境省 HP, 令和4年3月閲覧) 及び「指定文化財・登録有形文化財一覧について」 (富谷市 HP, 令和4年3月閲覧) の所在地を元に作成。

図 3.1.5-5 巨樹・巨木林, 天然記念物の分布状況

(3) 生態系

(7) 調査すべき情報

- ① 動植物その他の自然環境に係る概況
- ② 複数の注目種・群集に着目した生態系の概況

(4) 調査地域

対象事業実施区域及びその周辺とした。

(ウ) 調査方法

「(1) 動物」及び「(2) 植物」の結果及び地形分類図等の資料を整理することにより実施した。

(イ) 調査結果

① 生態系類型区分

対象事業実施区域及びその周辺での生態系の概略を把握するため、既存の地形分類図及び現存植生図を用いてオーバーレイを行い、生態系類型区分図を作成した。生態系類型区分図を図 3.1.5-6 に、生態系類型区分図の凡例を表 3.1.5-18 に示す。

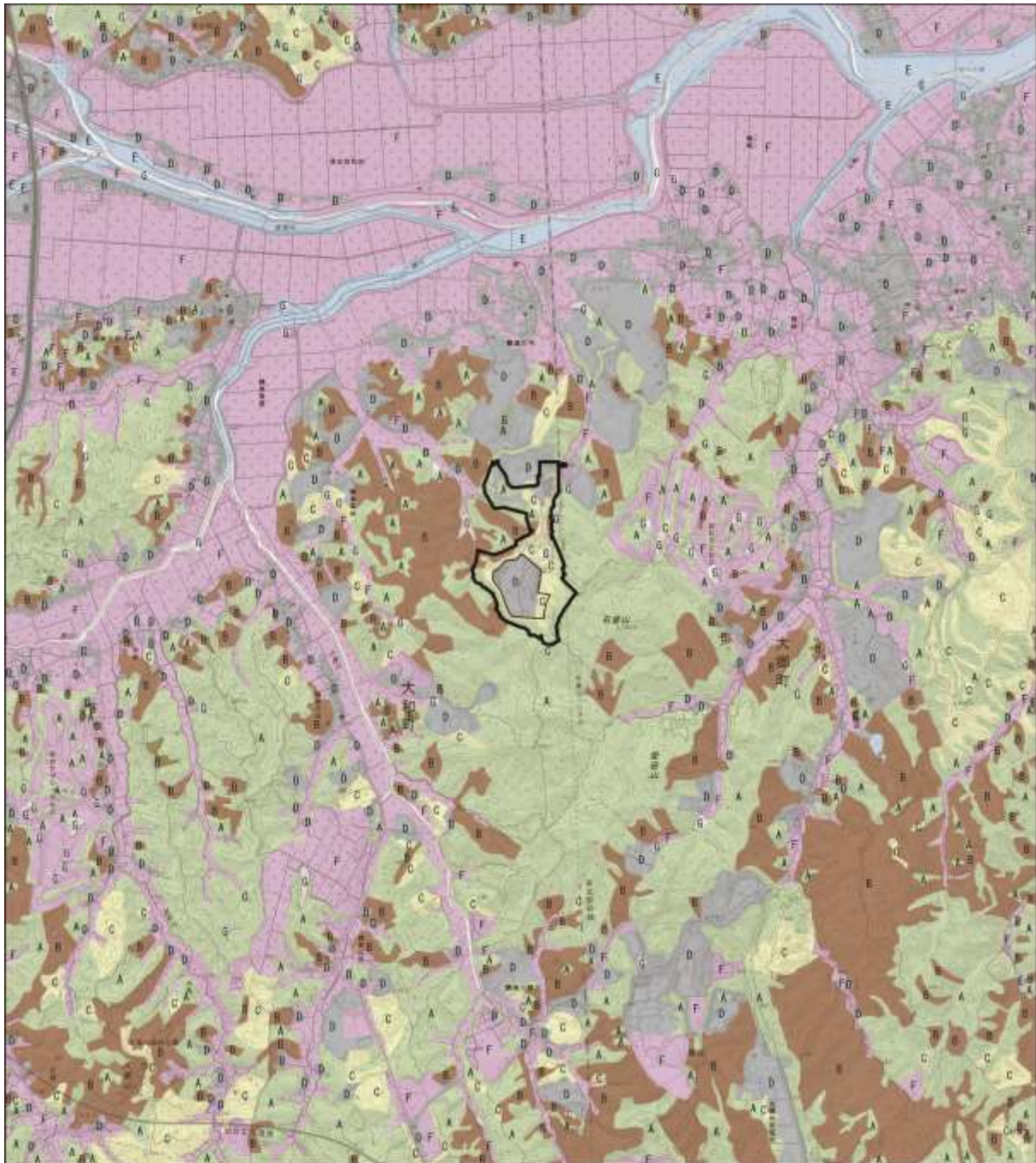
山地及び丘陵地は主に二次林、植林地、草原・低木林の区分、台地及び段丘は主に市街地等の区分、低地は主に河辺・湿原、耕作地等、河川・湖沼の区分となった。

表 3.1.5-18 生態系類型区分図の凡例

類型区分	図中色	主な地形	主な植生区分*1
二次林*2	A	山地及び丘陵地	クリーミズナラ群集、アカマツ群落(V)、クリーコナラ群集
植林地	B		スギ・ヒノキ・サワラ植林、竹林
草原・低木林	C		ススキ群団(V)、伐採跡地群落(V)、クズ群落、牧草地
市街地等	D	台地及び段丘	緑の多い住宅地、市街地、工場地帯、造成地
河辺・湿原	E	低地	ヤナギ高木群落(IV)、ヤナギ低木群落(IV)、オニグルミ群落(V)、ススキ群団(V)、アズマネザサ群落、ヨシクラス、ミゾソバヨシ群落、オギ群集、ヒルムシロクラス、牧草地
耕作地等	F		ゴルフ場・芝地、路傍・空地雑草群落、放棄畑雑草群落、放棄水田雑草群落、果樹園、畑雑草群落、水田雑草群落
河川・湖沼	G		開放水域

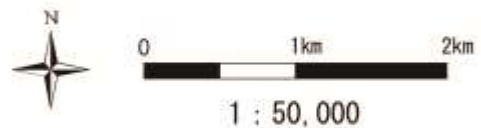
*1 植生区分は「図3.1.5-2 現存植生図」による。

*2 小面積のアオハダ・モミ群集及び自然裸地は「二次林」に含めた。



凡例

- 対象事業実施区域
- 埋立地



「図 3.1.5-2 現存植生図」及び「5 万分の 1 土地分類基礎調査 地形分類図」（宮城県、昭和 55 年）を元に作成。

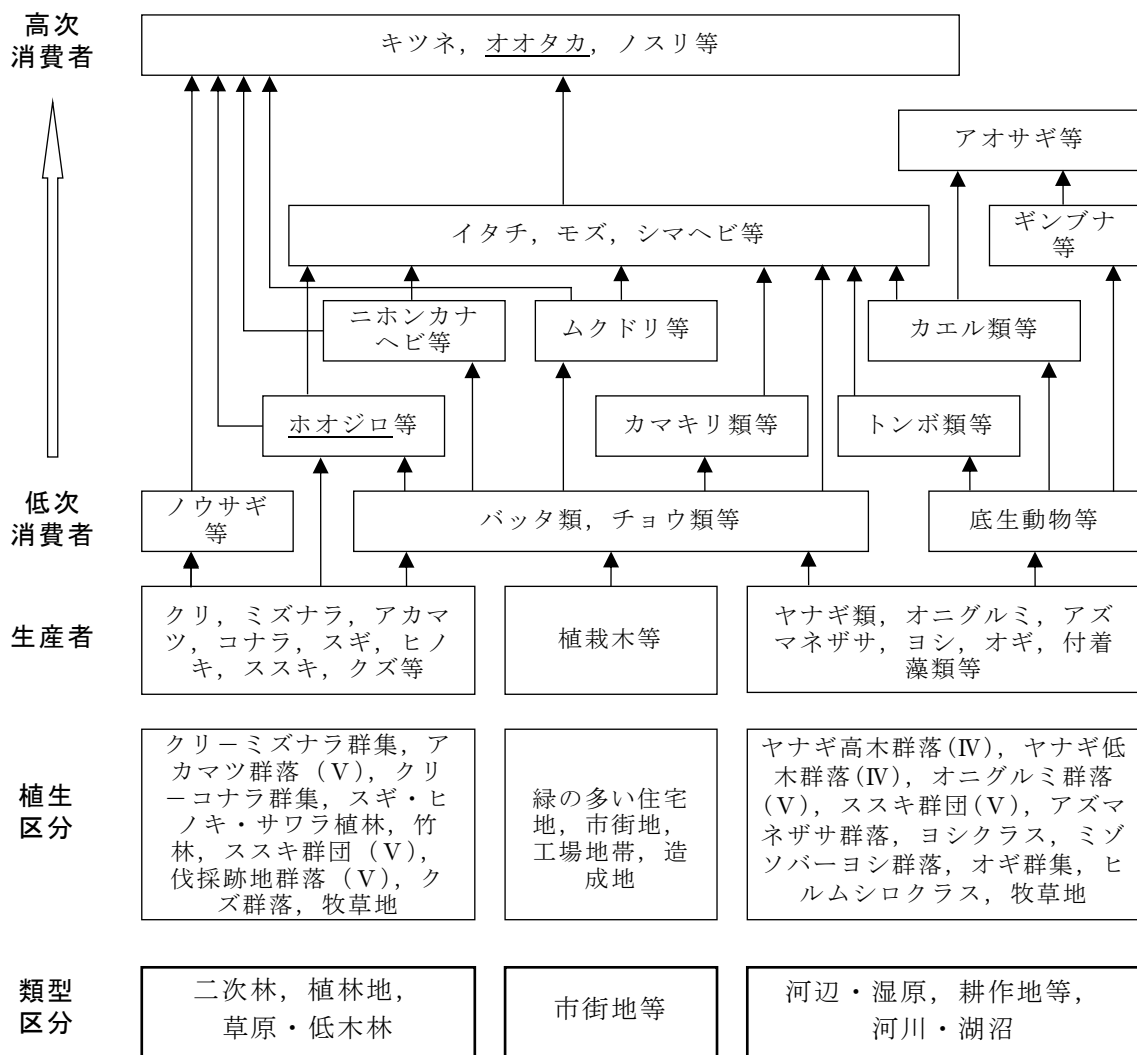
図 3.1.5-6 生態系類型区分図

② 注目種・群集の概要

「① 生態系類型区分」及び「動物」、「植物」の結果から整理した食物連鎖模式図を図 3.1.5-7 に示す。

クリ、アカマツ、コナラ、スギ、ススキ、クズ、植栽木、ヤナギ類、オニグルミ、ヨシ、付着藻類等を生産者とし、低次消費者としては、これらを食す昆虫類や底生動物等が位置し、その上には、雑食性のホオジロや昆虫食の爬虫類、両生類、トンボ類等が位置する。さらにその上には、肉食性のイタチ、モズ、シマヘビ等が位置し、高次消費者としては、キツネやオオタカ等、水辺ではアオサギ等が位置する。

これらを踏まえ、生態系の特性を指標する注目種及び群集について、概況調査の結果から上位性、典型性、特殊性の視点で抽出した候補を表 3.1.5-19 に示す。



注) 下線の種は注目種として抽出した種を示す。

図 3.1.5-7 食物連鎖模式図

表 3.1.5-19 注目種・群集の候補

抽出の 観点	注目種・群集の 候補	類型区分							抽出した理由
		A 二次林	B 植林地	C 草原・低木林	D 市街地等	E 河辺・湿原	F 耕作地等	G 河川・湖沼	
上位性	猛禽類 (オオタカ等)	○	○	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・オオタカ等の猛禽類の多くは行動圏が広く，中小型の哺乳類，中小型の鳥類，爬虫類，両生類等を捕食する生態系の高次消費者である。 ・対象事業実施区域と生息環境との関係によっては影響が及ぶこと，猛禽類に関する既存の知見が比較的豊富であること等から注目種・群集として選定した。
典型性	草地性鳥類 (ホオジロ等)			○					<ul style="list-style-type: none"> ・本事業によって改変される類型区分は主にC（草原・低木林）であり，草地性鳥類に影響が及ぶ可能性があることから選定した。
特殊性	—	—	—	—	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・特殊な環境が存在しないため現段階では選定しない。